

平成27年台風18号に伴う大雨による 鬼怒川決壊状況

このたび台風18号に伴う大雨により鬼怒川が決壊し、
多大な
被災された地域の皆様には心からお見舞い申し上げます。
朝日航洋株式会社は、一日も早い復旧復興のお役にたてますよう、微力ながら努
力してまいります。

【撮影日時】

平成27年9月10日17時ごろ

【撮影高度】

約900m

【撮影方法】

回転翼機より手持ち斜め撮影

※資料中の斜め写真の著作権は朝日航洋株式会社に帰属します。無断で転載・加工はしないでください。

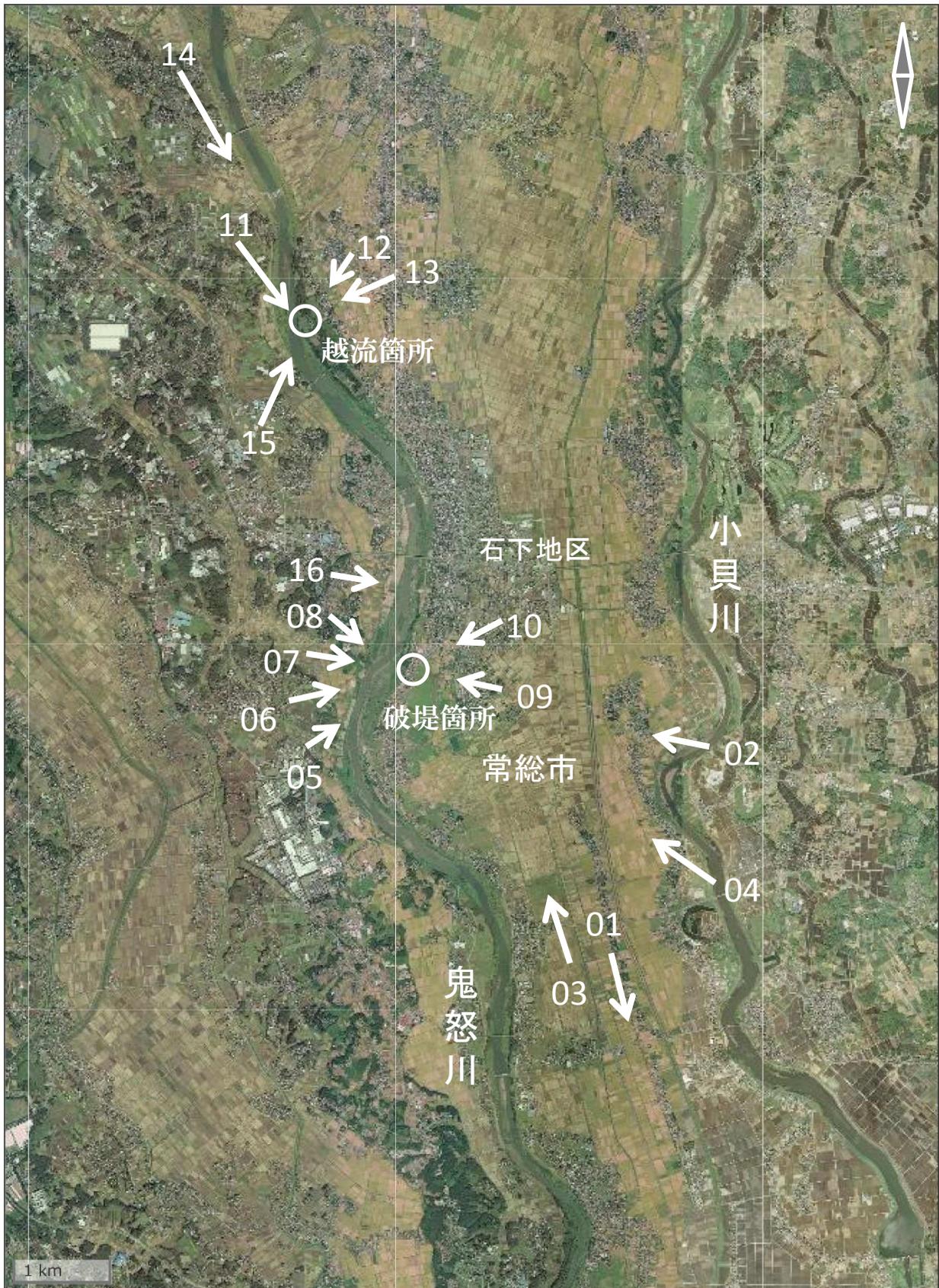
※本資料のコメントを作成するに際しては、最新の資料を確認しておりますが、誤りがありました場合は訂正いたしますのでご指摘いただけると幸いです。

※本資料はあくまで撮影時の情報であり、今後の現象を予測したり被災地での安全等を保障するものではありませんことをお断りいたします。

本資料に関する連絡先： 営業企画部 049-244-4817
東京空情支社営業1部 03-3988-1013

地理院地図

GSI Maps



写真位置図：写真01～16

※本図背景には地理院地図を用いた。



01常総市石下下流左岸 破堤箇所全景 上流側より

画面右中央が破堤箇所。手前が上流で奥が下流である。
左は東側を並行する小貝川で、水の色が全く異なるのが印象的である。
地理院地図と比較すると、氾濫浸水域は、この時点では下流側へは破堤箇所から約5.5kmまで達している。



02常総市石下下流左岸 破堤箇所全景 東側より

画面中央が破堤箇所。手前は東側を並行する小貝川で、水の色が全く異なるのが印象的である。破堤箇所から洪水流が激しく流入しているが、微高地に阻まれ下流側に曲がりながら氾濫している様子がうかがえる。



03常総市石下下流左岸 破堤箇所全景 左岸下流側より

画面中央左上が破堤箇所、中央上部が石下市街地である。石下市街地と鬼怒川左岸沿いは自然堤防の微高地であり、わずかに浸水を免れている。

中央を横切る建設中の圏央道インターチェンジの左右にある高架部を洪水流が流下している。水面の泡の配列により、流下方向がおおよそ推定できる。



04常総市石下下流左岸 氾濫状況 左岸下流側より

画面中央左上が破堤箇所、中央上部が石下市街地である。破堤箇所よりも上流から氾濫しているが、これは石下市街地上流の左岸側にみられる越流氾濫の影響も含まれている。

右側を右上から中央下部へと流下するのは小貝川で、水面の色の違いが際立つ。一方鬼怒川の奥(写真左上)に遠望できる水面は飯沼川の谷で、氾濫し水面幅が大きくなっている。

水面の泡の配列や濁流の濃淡により、流下方向がおおよそ推定できる。



05常総市石下下流左岸 破堤箇所全景 右岸下流側より

画面中央が石下地区の市街地全景。破堤したのはやや南側である。
破堤箇所から洪水流が激しく流入し堤内側に氾濫している様子がうかがえる。



06常総市石下下流左岸 破堤箇所 右岸下流側より

画面中央が破堤箇所、上部が石下市街地である。
破堤箇所から流入する洪水流はいったん左岸側ほぼ直角方向に流れるが、すぐに広がりながら下流方向に流下方向を変える。



07常総市石下下流左岸 破堤箇所 右岸側より

画面中央が破堤箇所、左上が石下市街地である。市街地が微高地で、氾濫による浸水位も小さいことがわかる。

破堤箇所から流入する洪水流は、破堤箇所直下では激しく波立ち、流速が大きいことがわかる。



08常総市石下下流左岸 破堤箇所 右岸側より

画面中央が破堤箇所、左が石下市街地である。

破堤箇所から流入する洪水流はすぐに広がりながら下流方向に流下方向を変えるが、その先で画面右端を上下に延びる道路でやや規制され、右中央部と右上の高下部に洪水流が集まっている。



09常総市石下下流左岸 破堤箇所 左岸側より

画面中央が破堤箇所、右が石下市街地である。
破堤箇所から流入する洪水流はすぐに広がりながら下流方向に流下方向を変える。



10常総市石下下流左岸 破堤箇所 拡大 左岸上流側より

画面中央が破堤箇所、左上が鬼怒川で、右下が上流、中央上が下流である。
破堤箇所から流入する洪水流は、破堤箇所直下では激しく波立ち、流速が大きいことがわかる。



11常総市石下上流左岸 越流箇所 上流側より

画面中央の植生の切れ目が越流箇所、中央の鬼怒川は、下が上流、上が下流である。越流箇所から流入する洪水流は、植生背後で下流方向に流れを変えつつ氾濫している。



12常総市石下上流左岸 越流箇所 左岸側より

画面中央が越流箇所、中央を右から左に流下するのが鬼怒川である。越流箇所は太陽光発電施設が立地している。洪水流は、太陽光発電施設の上流側を集中的に流下している。写真撮影時よりも以前から越流氾濫していたようで、太陽電池パネルに浮遊ゴミが多く付着している。これをみると、氾濫開始当初は写真の時点よりも水位が高かったと考えられ、また氾濫が長時間続いていることがうかがえる。



AERO ASAHI CORPORATION

13常総市石下上流左岸 越流箇所 左岸側より2

画面中央が越流箇所、中央を右から左に流下するのが鬼怒川である。

越流箇所から流入する洪水流は、植生背後の集落横断後に次第に下流方向に流れを変えつつ氾濫している。



AERO ASAHI CORPORATION

14常総市石下上流左岸 越流箇所遠景 上流右岸側より

中央の鬼怒川は、下が上流、上が下流である。

中央上部の市街地が石下地区である。



15常総市石下上流左岸 越流箇所遠景 下流右岸側より

画面左下から中央下に流下するのが鬼怒川である。中央左下が越流箇所である。
画面左中央には蛇行する旧河道がみられ、浸水している。急可動部分は、周囲、特に上流側と比較して明らかに低く、その浸水限界は地理院地図と比較すると標高約19m程度とみられる。
一方画面中央上部はさらに背後の地区での氾濫による浸水の上流端がみられ、地理院地図と比較すると、その浸水限界は標高約18m程度とやや低いようである。



16常総市石下地区 浸水状況 右岸側より

画面中央やや左を上下に貫く道路が県道24号であり、下端の橋梁が石下大橋である。
市街地はほぼ全域浸水している。



写真位置図: 写真17~18

※本図背景には地理院地図を用いた。

地理院地図

GSI Maps



※本図背景には地理院地図を用いた。



17鬼怒川・利根川合流点付近全景

画面右が鬼怒川、左が利根川である。どちらも高水敷を超え堤防天端下まで水位が上昇している。利根川は左岸の越流堤から調整池に洪水流が導流されている。



18鬼怒川・利根川合流点付近 調整池越流部

画面右が利根川、上部が鬼怒川である。
利根川は左岸の越流堤から調整池に洪水流が導流されている。